

保護者名 様

の ←黄色い四角はお子様のお名前です

定期的な健康管理のための  
ピータース・ラボ検査結果レポート



Peter's Lab

ペットケアサイエンス

Peter's Lab Health Checkup Report

検体到着日: 2024-07-07

検査完了日: 2024-07-30



# ピータース・ラボ

## ペット研究所

ピータース・ラボと共に  
いつまでも元気で幸せに

# 検査レポートについて

株式会社ピータース・ラボは、ペットの科学的な健康管理のために提供するピータース・ラボ検査レポートです。

・ 過去8年間、5,500例以上を越える臨床、ペットの口腔から採取した検体の科学的定量検査、RT-PCR(遺伝子増幅)方式、問診データ、関連研究論文、また試薬の自主開発等で蓄積された技術とデータを基盤として疾病を誘発する病原体の遺伝子分析の正確率99.9%の世界最高水準の研究所を持つR&D会社として成長しました。

・ 生命科学技術力とメディカルAI「ジェンナー」を用いて分析・予測された科学的な結果であり、事例が増加とともに病原体と特定疾患との相関関係がより正確になっていきます。

・ ピータース・ラボ検査レポートが提供する関連疾患リスク予測は、定期検査を通してペットのご家族が前もって疾病に対応できるようにするための指標です。

・ ピータース・ラボ検査レポートを通して、関連疾患リスク予測による科学的なペットケアソリューションも一緒に提案します。

---

## 【案内事項】

- ・ 検査レポートの数値は定量的な値であり、所見とソリューションは様々な論文、参考文献、検査統計を客観的に活用しました。
- ・ 疾患の発生時期や症状は、ペットの個々の生活環境や管理状況によって異なる場合があります。
- ・ 獣医学者の見解によっては検査結果の解釈が異なる場合があります、再検査や精密検査が必要になる場合があります。

## 【注意事項】

- ※ 当該検査結果は、病気の診断用には使用することはできません。
- ペットに異常な症状が見られる場合は、すぐにかかりつけの獣医師にご相談ください。
- ※ 研究所によって分析された検査結果を任意に変更することはできません。

# 目次

## ● 検査レポート活用ガイド

Page 1 - 2

### 1. ペットの基本情報

Page 4

### 2. ピータース・ラボ総合点数

Page 5 - 6

- 1) 総合点数
- 2) 健康グレード
- 3) 比較グループ分析
- 4) 検査回数別の総合点数の推移

### 3. 病原体の分析結果

Page 7 - 9

- 1) 病原体別の特性および検出の有無
- 2) 病原体別の検出分析結果
- 3) 病原体別の関連疾患

### 4. 疾患リスクの分析結果

Page 10 - 12

- 1) 全身疾患リスクの分析結果
- 2) 口腔疾患リスクの分析結果

### 5. ソリューションのご提案

Page 13

※ ピータース・ラボ検査レポートはメディカルAI「ジェンナー」によって自動分析後に算出されます。  
メディカルAI「ジェンナー」バージョン別臨床事例量の増加により、同じ検査結果でも分析時期によって内容が変わることがあります。



# 検査レポート活用ガイド

# ピーターズ・ラボ検査レポートの重要な基準と意味をご確認の上、詳細の結果をご覧ください。

## ● ピーターズ・ラボ検査の目的

- ・ ペットの健康状態を正確に把握し、疾病の早期発見と予防を通じて、健康な生活をサポートすることです。
- ・ 特に、ペットが自ら症状を表現できない場合に役立ちます。

## ● 疾患リスク予測のためのピーターズ・ラボの検査方法

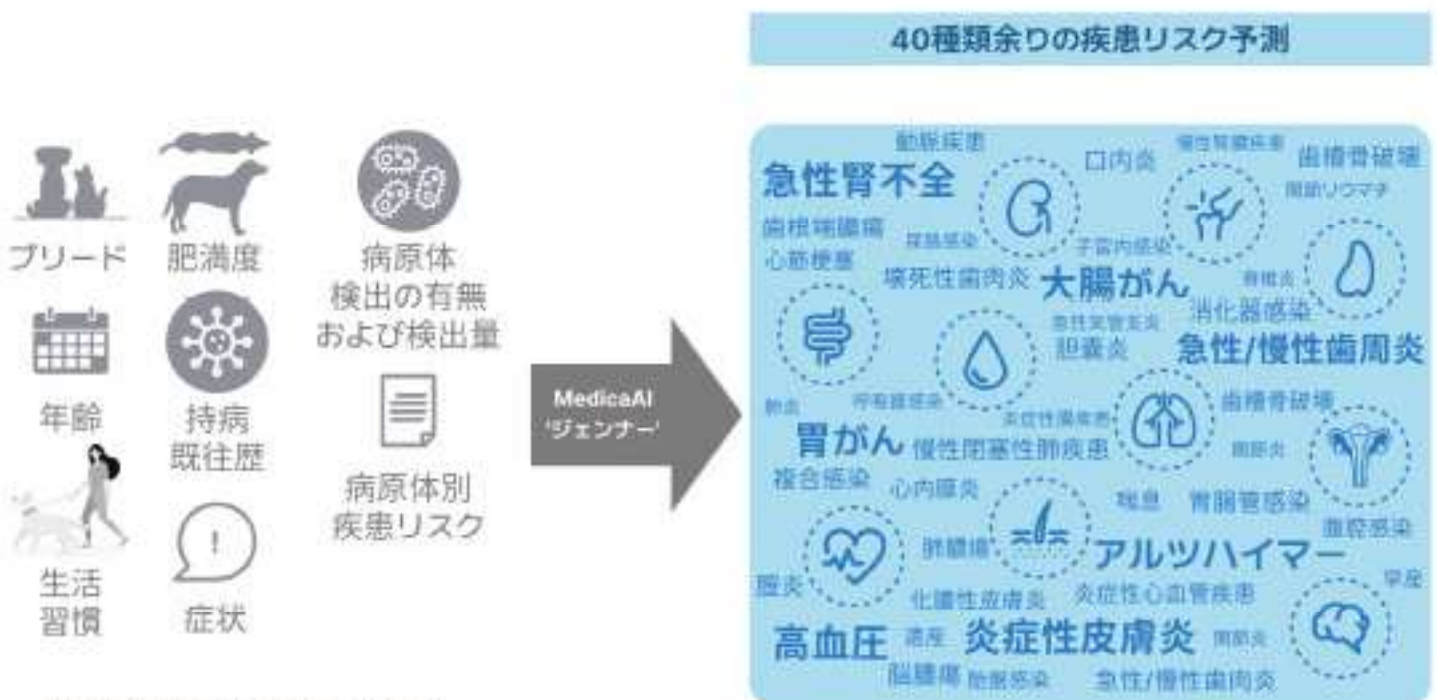
### 1) 病原体定量検査(RT-PCR)

- ・ 犬と猫の疾病の70%以上が感染性の疾病だをご存知でしょうか？
- ・ 犬と猫の疾病のうち70%以上が感染性の疾病で、感染性疾患の原因である病原体を最も正確に確認できる方法は、ペットの口腔検査(RT-PCR)です。
- ※ RT-PCR(リアルタイム PCR)検査は、新型コロナウイルス検査でよく知られているリアルタイム遺伝子増幅検査です。
- \* ピーターズ・ラボ検査は、協力遺伝子検査機関 で熟練した専門家がRT-PCR検査を直接行い疾病に関連している病原体量を正確に検出します。(衛星検査所登録証明書,3令台台健生医い第431号)

### 2) メディカルAI「ジェンナー」

- ・ 医療専門家、バイオ専門家、IT専門家の8年間の協力の末に開発したピーターズ・ラボ独自のメディカル人工知能(AI)アルゴリズムです。
- ・ 5,500例以上の臨床データを通じて学習し、6ヶ月ごとにアップデートして精度を高めています。
- ・ 予防医学の面においても、ペットの医療費削減に貢献することを期待されています。

### 3) 主要分析データセット



- ・ 共同研究所の検査 | 独自開発の専用試薬
- ・ RealTime PCR 定量検査 | 5,500例の臨床データ | 問診データ

## ● 検査レポートの点数・グレードの意味

- ・結果は分かりやすく点数、グレードで算出していて、特に同年代の種類別の平均、±1歳の平均点数と一緒に提示しているのでペットの健康レベルを科学的に確認することができます。
- ・点数は100点満点基準で100点に近いほど健康で、グレードは結果によって段階別に提供されます。

総合所見	総合点数	40種類余りの疾患を全て反映して100点満点基準で算出されます。 同じ種類、年齢および±1歳のグループ間で比較、検査回数の点数を通してペットの健康レベルを把握することができます。
	健康グレード	総合点数を基準として5段階で表示されます。 
病原体の分析結果	検出量リスク	病原体の検出量によって4段階で表示されます。 
関連疾患リスク	全身疾患リスク	病原体の検出の有無と検出量、関連疾患に対して蓄積された研究結果を基にペットの発病危険度が高い9種類の重要な疾患群に対して3段階で表示されます。 
	口内点数 / 口臭点数	口内点数は口腔に関連する病原体別の検出量、口腔疾病危険度等を基準として100点満点基準で算出されます。 口臭点数は口臭に関連する病原体別の検出量、口腔疾病危険度等を基準として100点満点基準で算出されます。
	口腔疾患リスク	口内点数と口臭点数を基準として4段階で表示されます。 
◎ 参考	%	%は犬・猫の全体の種類を基準に算出されます。 

## ● ソリューション

- ・ピータース・ラボ検査の結果とご家族の方が作成された問診データに基づいて提案されます。
- ・ピータース・ラボは対面せずに行う検査をことを勧奨し普段の生活習慣、食習慣などを参考にしてソリューションを実行してみてください。
- ・ピータース・ラボ検査は、定期的な管理をサポートします。次のおすすめ検査日をご確認ください。



# Peter's Lab

ペットケアサイエンス



# 1. ペットの基本情報

# ピータース・ラボ検査の結果を確認する前にペットの基本情報について確認します。

保護者の名前

## 検査情報

検査番号	J2407040020
検体到着日	2024-07-07
検診タイプ	病原体 RT-PCR

検査種類	全身疾患(疾病40種)
検査完了日	2024-07-30
検査回数 <sup>1)</sup>	2回目

## 基本情報

ペットの種類	犬
生年月日	2013-09-22
性別	メス
不妊去勢手術	<input checked="" type="checkbox"/> / <input type="checkbox"/> 未

ペットの名前	
ブリード(品種)	フレンチブルドッグ
年齢(人間換算) <sup>2)</sup>	10歳(68歳)
体重	9.5Kg

## 保護者の方への問診 重要参考事項

アレルギー	
生活習慣	散歩 - 週に3.4回 / 歯磨き頻度 - 週に3.4回

## ※ ピータース・ラボのおすすめ再検査日 : 2024-11-12

※ メモ：検査以降ペットの健康、身体活動において気になる点がある場合、  
次回の検査のためにメモを残しておきましょう。

1)検査回数とは現在迄の検査回数です。ペットの健康状態に応じて、4~5ヶ月単位の定期検査をお勧めします。  
また、ピータース・ラボ検査の結果で疾患リスクが高く確認された場合、または投薬薬物の状態に応じて1ヶ月または3ヶ月後の再検査を推奨しています。

2)ペットの現在の年齢(月齢)を人間の年に換算したものでペットの一生を分かりやすく表したものです。



## 2. ピーターズ・ラボ総合点数

保護者の名前	
ペットの名前	
ペットの種類   ブリード	犬   フレンチブルドッグ

検査No.	J2407040020
生年月日	2013-09-22
性別   不妊去勢手術	メス   済
人間年齢 <sup>2)</sup>	68歳

健康ランクは「普通」です。

病原体の分析結果(検出量,危険度, 関連疾患等)は後ろのページで確認してみてください。

小梅は、約4カ月後にピーターズ・ラボ検査で健康状態の点検をすることをお勧めします。

ピーターズ・ラボおすすめの再検査日: 2024-11-12

### 1) 総合点数 79点



の総合点数は犬全体の中で中間(上位基準39.56%)です。

犬全体の総合点数をパーセンテージに換算し総合点数を他の犬の点数に対比して相対的な位置でお知らせします。

※ 同種の百分位上の位置は健康の基準ではなく、参考のためにお知らせします。

これは上位だからといって健康だ、下位だからといって健康でないという意味ではありません。

### 2) 健康グレード



の健康グレードは「普通」です。

ピーターズ・ラボによると、多くの犬の健康グレードが「普通」から「注意」に低くなる傾向があります。

9歳以上の犬は免疫力が低下し、総合点数と健康グレードが急に悪くなる場合があります。

健康状態の変化を知るために定期的な検査を推奨します。

次のピーターズ・ラボ検査時、様々な指標の変化推移を確認してください。

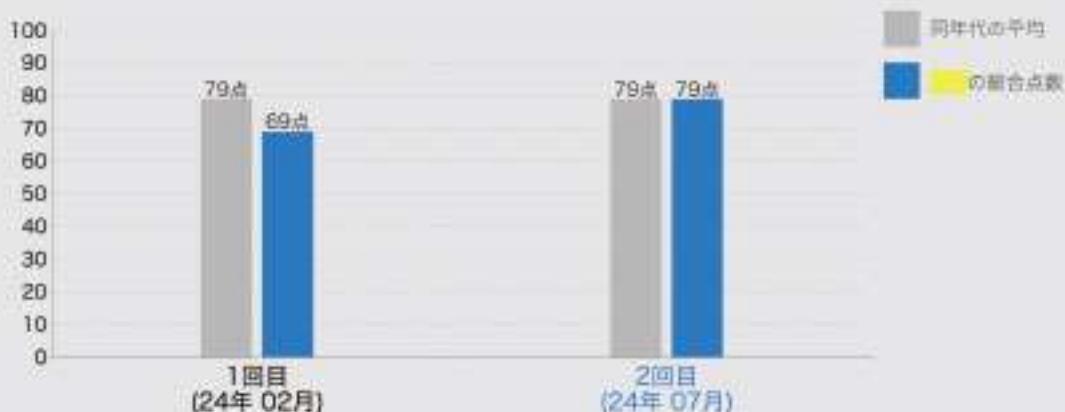
### 3) 比較グループ分析



検査データの総合点数は79.0点、同年代の犬の平均です。

※ 同種、同年代の平均点数は健康の基準ではなく、参考のためにお知らせします。  
平均だからといって健康である、または平均より低いからといって健康でないという意味ではありません。

### 4) 検査回数別の総合点数の推移 (同年代の同じ種類の平均 vs. 検査データ)



今回の検査は前回に比べて10.0点高いです。。

※ 検査時点における同一年齢層の平均は、検査時点における同一個体数の変化によって異なることがあります。  
メディカルAI「ジェンナー」の高度化により、総合点数と健康グレード評価基準も更新されますので、ご参考ください。  
メディカルAI「ジェンナー」は年2回以上データおよびアルゴリズムアップデートを通じて正確度を高めています。

### 3. 病原体の分析結果

# ペットの疾患に影響を及ぼす9種類の病原体を選定し、その病原体の遺伝子分析を行いました。

9つの病原体は、検出時の疾患との関連性によって高危険群、中危険群、低危険群に分類されました。

#### 3-1) 病原体別の特徴及び検出の有無

・ から検出された病原体は計7種です。  
-> 病原体検出量と危険度は3-2)結果からご確認ください。

病原体	病原体の解説と管理ガイド	病原体レベル	検出の有無
T.f	<p><b>Tannerella Forsythia(タンネレラ・フォーサイシア)</b></p> <p>特徴: 酵素や細胞の成分を変形させ、様々な病気を誘発。血管を弱め、心血管疾患を持つ高齢のペットは特に注意が必要。 感染リスク: ペットから人への感染転移で変種が発生する可能性がある。 管理方法: 市販のペットフードではなく、生食や火食。人食を与える場合は特に注意し、早めの除去と管理を推奨。</p>	高危険レベル	有
T.d	<p><b>Treponema denticola(トレポネーマ・デンティコラ)</b></p> <p>特徴: グラム陰性嫌気性菌の病原体で、酵素や細胞の成分を変形させ、様々な病気を誘発。赤血球の凝集活動を妨げ、消化器関連の病気とも関連。 感染リスク: 特に猫への感染率が高い。 管理方法: 猫のご家庭は注意と管理が必要。</p>		有
F.n	<p><b>Fusobacterium nucleatum(フソバクテリウム・ヌクレアタム)</b></p> <p>特徴: 犬、猫の腸の健康に影響し、大腸がんとの相関関係が増加。特にメスの疾患との関連が高い。 感染リスク: 妊娠を計画しているペット（メス）の場合、数値検査が推奨。 管理方法: 正確な定量検査が必要で、ピータースラボは99%以上の精度で検査可能。</p>		有
P.n	<p><b>Prevotella nigrescens(プレボテラ・ニグレセンス)</b></p> <p>特徴: 大量に群集を形成し、免疫システムを崩す。伝染性と攻撃性が高い。 感染リスク: 犬よりも猫に多く見られ、炎症性の疾患を持つ猫に多く発見する。 管理方法: 初期管理が重要で、速やかな除去が必要。</p>	中危険レベル	無
P.m	<p><b>Parvimonas micra(パルピモナス・ミクラ)</b></p> <p>特徴: 様々な動物の化膿性病変の原因。独立して病気を引き起こすことは少なく、他の病原体と合併して病気を引き起こす。 感染リスク: 感染原因は不明で、PCR遺伝子増幅検査が必要。 管理方法: 皮膚や耳から発見されることが多いので、ペットが傷をなめないように注意。</p>		有
C.r	<p><b>Campylobacter rectus(カンピロバクター・レクタス)</b></p> <p>特徴: 胃腸管感染を引き起こし、広範囲な毒性因子を持つ。 感染リスク: 犬または野良猫の糞便を通じて伝染し、犬、猫、人間が感染する可能性がある。 管理方法: 基礎疾患を持つペットや高齢のペットは特に注意が必要。</p>		有
P.i	<p><b>Prevotella intermedia(プレボテラ・インターメディア)</b></p> <p>特徴: 歯周病の主要な原因菌であり、口腔衛生の不良や過剰などが原因とされています。 感染リスク: 猫に多く存在し、皮膚感染時に急性壊死を引き起こす事もある。 管理方法: プロポリスが病原体除去に役立つ。</p>	低危険レベル	有
E.n	<p><b>Eubacterium nodatum(ユーバクテリウム・ノダタム)</b></p> <p>特徴: 歯周病の原因菌で、口臭の原因。日和見感染を引き起こす。 感染リスク: 高齢のペットや手術後の回復期間中のペットが特に注意。 管理方法: 免疫力が弱くなったペットに特に気をつけること。</p>		無
E.c	<p><b>Eikenella corrodens(アイケネラ・コロデンス)</b></p> <p>特徴: 複合感染を引き起こし、急性に発展する場合もある。 感染リスク: 低危険群に分類されるため、病原体の検出量が多くても病気との関連性は低い。 管理方法: 感染時の管理が重要。</p>		有



### 3-2) 病原体別の検出分析結果

・9種類の病原体のうち、          に検出された病原体は計7種類です。  
 (高危険度病原体3種、中危険度病原体2種、低危険度病原体2種)

-> 病原体検出量と危険度は3-2)結果からご確認ください。

#### ▶ 病原体検出細菌量及び検出量リスク

疾病危険度	病原体	検出の有無 (有/無)	検出された細菌量 (個数)	検出量の危険度			
				正常	関心	注意	深刻
高危険群	T.f	有	約 20,883	▲			
	T.d	有	約 7,549	▲			
	F.n	有	約 41,500,664			▲	
中危険群	P.n	無	-	▲			
	P.m	有	約 9,179,825				▲
	C.r	有	約 1,150	▲			
低危険群	P.i	有	約 30,256		▲		
	E.n	無	-	▲			
	E.c	有	約 4,229,018			▲	

#### ▶ 検査回次別の病原体検出の有無及びリスク

		病原体	T.f	T.d	F.n	P.n	P.m	C.r	P.i	E.n	E.c
検出有無	2回目		Y	Y	Y	N	Y	Y	Y	N	Y
	1回目		Y	Y	Y	N	Y	Y	Y	N	Y
危険度	2回目		正常	正常	注意	正常	深刻	正常	関心	正常	注意
	1回目		注意	注意	深刻	正常	深刻	正常	関心	正常	関心
		病原体	T.f	T.d	F.n	P.n	P.m	C.r	P.i	E.n	E.c

#### ●【参考】病原体検出量による危険度の解析

病原体検出量が「注意」、「深刻」だからといって、保護者様のペットが必ずしも病原体関連疾患を患っているという意味ではありません。該当病原体に対する専門論文、類似の検査結果の事例を基準に科学的に提示する危険度です。

詳細疾患のリスク分析結果をご確認の上、事前に専門家にご相談いただくと、病気の予防および早期発見に役立ちます。

ピーターズ・ラボは非対面検査であることを考慮して、ペットの養育状態、個別養育環境、症状などを一緒に考慮してください。

獣医によって見解が異なる場合があります、特定疾患の診断目的では使用できません。



### 3-3) 病原体別の関連疾病と予測される疾患

# ピータース・ラボは約5,500例の臨床を通じて病原体と9種類の疾患群、40種類の疾病の関連を予測しています。

に検出された病原体は計7種です。

に直接・間接的に影響を与える可能性のある高/中危険度の病原体は、タンネレラ・フォーサイシア、フソバクテリウム・ヌクレアタム、トレポネーマ・デンティコラ、カンピロバクター・レクタス、パルピモナス・ミクラ5種です。

詳細は「病原体の分析結果」でご確認ください。

→ セクション4の関連疾患から、小冊の健康をより詳しくご確認ください。

#### ▶ 病原体の細菌検出量

病原体	T.f	T.d	F.n	P.n	P.m	C.r	P.i	E.n	E.c
検出の有無(有/無)	有	有	有	無	有	有	有	無	有
検出量危険度	正常	正常	注意	正常	深刻	正常	関心	正常	注意

#### ▶ 関連疾患群

病原体	T.f	T.d	F.n	P.n	P.m	C.r	P.i	E.n	E.c
	高危険群			中危険群			小危険群		
口腔系			∨				∨		
消化器系			∨		∨				∨
関節系			∨		∨				∨
皮膚系					∨		∨		
心血管系			∨		∨		∨		∨
呼吸器系			∨				∨		∨
泌尿器系			∨						∨
神経系(脳)							∨		
メスの疾患系			∨				∨		

※ ∨は該当の病原体と相関性のある疾患群を意味します。細菌検出量が非常に深刻な場合、∨が赤色で表示されます。

ただし、低危険群は検出されたとしても、疾病との関連性が比較的低い病原体なので、高/中危険群の病原体との臨床的な関連性を特に注意してご覧ください。

#### ▶ 関連疾患群の詳細な予測疾患

関連疾患群	詳細な予測疾患
口腔系	急性/慢性歯周炎、急性/慢性歯肉炎、壊死性歯肉炎、歯根端膿瘍、歯槽骨感染、歯槽骨破壊、複合感染
消化器系	胃がん、大腸がん、消化器感染、胆嚢炎、膵臓管感染、腹腔感染、炎症性腸疾患
関節系	関節リウマチ、関節炎、骨髓炎、脊椎炎
皮膚系	炎症性皮膚炎、化膿性皮膚炎
心血管系	動脈疾患、心筋梗塞、高血圧、炎症性心血管疾患、心内膜炎
呼吸器系	慢性閉塞性肺疾患、急性気管支炎、呼吸器感染、肺膿瘍、肺炎、喘息
泌尿器系	慢性腎臓疾患、急性腎不全、尿路感染
神経系(脳)	脳腫瘍、アルツハイマー
メスの疾患系	早産、子宮内感染、産炎、胎盤感染

## 4. 関連疾患リスクの分析結果

# ピータース・ラボは5,500例以上の臨床を基に病原体と9種類の疾患群、40種類の疾病の相関関係を予測し、このうち発症率が高い9種類の疾患群に対する危険度をお知らせします。  
これは検出された病原体の検出量、保護者の方が作成された問診、臨床データの比較に基づき分析されました。

### 4-1) 全身疾患リスクの分析結果



疾患リスク	正常	関心	注意
口腔系			注意
消化器系		関心	
関節系		関心	
皮膚系			注意
心血管系		関心	
呼吸器系			注意
泌尿器系			注意
神経系(脳)	正常		
メスの疾患	該当なし	該当なし	該当なし

■が注意すべき疾患は、口腔系、泌尿器系、皮膚系、呼吸器系の疾患です。

■が気を付けるべき疾患は、関節系、消化器系、心血管系の疾患です。

リスクが「注意」 関心」だからといって、現在の■に該当疾患があるという意味ではありません。

ただ、■と同結果の犬たちに当該疾患のリスクが見受けられるので、気をつけてケアするよう、お勧めします。

※ 検査レポートは病原体9種と関連疾患40種を中心に危険度分析結果を提供しています。  
病気の発生時期や症状は、ペットの個々の生活環境や管理状況によって異なることがあります。

## 4-2口腔疾患リスクと分析結果

### 1) 口内点数 32点



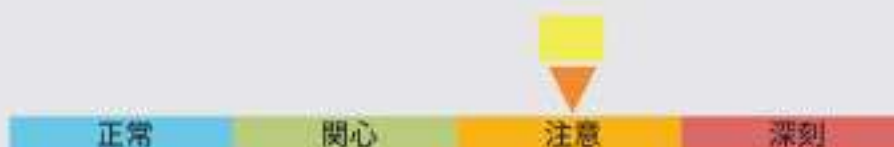
の口内点数は32点、同年代の犬の平均に比べて22.3点低いです。

の口内点数は全体の犬の中で下位(下位基準28.42%)です。

※ 上記の%数値は健康の基準ではなく、参考資料としてご覧下さい。

(これは上位だからといって健康だ、下位だからといって健康でないという意味ではありません。)

### 2) 口腔疾患リスク



の口腔疾患リスクは「注意」です。

「注意」はピーターズラボ検査によると、に口腔疾患リスクがあることを意味します。

ただし、の口内点数は「注意」のうち下位で、リスクが高くなる可能性があります。

はピーターズラボの再検査の際に、現在の口内点数との比較確認をおすすめします。

は普段よりもっと細心な口腔ケアが必要です。

口腔ケア製品、生活習慣(歯磨き方法、歯磨き後の間食摂取など)を見直してみることをおすすめします。

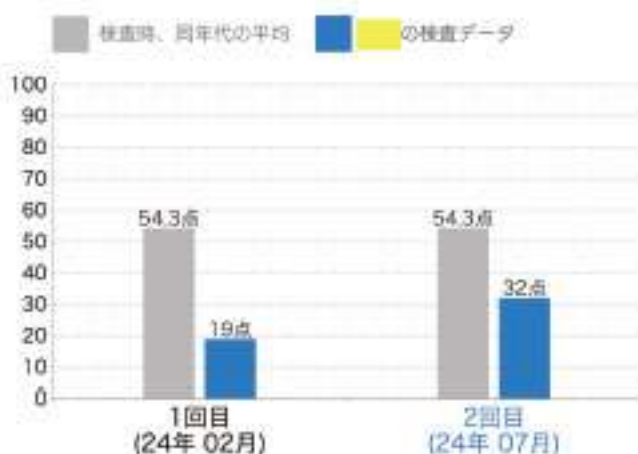
また、平常時の口内炎、歯肉(歯と歯茎の境界)に帯状炎症、過度の口臭などがあるか観察をお願いします。



## 【比較グループ群口内点数】



## 【検査回別口内点数】



※ 同種、同年代の平均点数は健康の基準ではなく、参考のためにお知らせします。  
平均だからといって健康である、平均より低いからといって健康でないという意味ではありません。  
メディカルAI「ジェンナー」の高度化により、口臭点数の評価基準も更新されますので、ご参考ください。  
メディカルAI「ジェンナー」は年2回以上データおよびアルゴリズムアップデートを通じて正確度を高めています。

## 4-3 口臭分析結果

の口臭点数は58点、同年代の犬の平均に比べて14.1点低いです。

の口臭点数は全体の犬の中で中間(上位基準45.16%)です。

口臭の点数は、口腔内の口臭誘発病原体の定量分析の結果で、保護者が実際に感じる口臭の程度と差があることがあります。

口臭誘発病原体の定量は口腔疾患開始の尺度になることがありますので、口内点数の補助指標としてご参考にして下さい。

## 【比較グループの口臭点数】



## 【検査回別口臭点数】



※ 同種、同年代の平均点数は健康の基準ではなく、参考のためにお知らせします。  
平均だからといって健康である、平均より低いからといって健康でないという意味ではありません。  
メディカルAI「ジェンナー」の高度化により、口臭点数の評価基準も更新されますので、ご参考ください。  
メディカルAI「ジェンナー」は年2回以上データおよびアルゴリズムアップデートを通じて正確度を高めています。



## 5. ソリューションのご提案

### ▶ 総合評価

の総合点数は79.0点、同年代の犬の平均です。

の総合点数は犬全体の中で中間(上位基準39.56%)です。

の健康グレードは「普通」です。

に検出された病原体は計7種です。

に直接・間接的に影響を与える可能性のある高/中危険度の病原体は、そのうちの5種です。

の口内点数は32点、同年代の犬の平均に比べて22.3点低いです。

の口腔疾患リスクは「注意」です。

### ▶ ソリューション

は犬の生涯周期上の老齢期です。

老齢期は病気にかかりやすい為、細心の注意を払い に合う管理で安定的な免疫力を高めなければならない時期です。

前回の検査に比べて特定病原体検出量は減少しましたが、依然として複数の病原体が検出されて免疫力強化に気をつけていただくことをお勧めします。 が使用する物を定期的に消毒して衛生管理したほうがいいです。自宅で呼吸器を刺激する要因(ほこり、タバコの煙、ディフューザーなど)を減らし、適切な温度と湿度の管理をお勧めします。また、散歩の際は首輪の代わりにハーネスを着用することをお勧めします。特に適正体重に調節する食事療法と十分な水分摂取をお勧めします。

特に、口腔疾患の予防のために機能性歯磨き粉を使用して、1日1回歯磨きをして、口腔関連の異常症状が続いたり、ひどくなったら、動物病院の歯科検診を受診してみてください。皮膚疾患の予防のために、定期に入浴をし、入浴後にはよく乾燥させ、保湿に役立つ製品を使用するといいです。特に、耳や足の部分を気にかけてケアしてください。皮膚疾患が発生したら、 が舐めないように気をつけてください。

の基礎代謝量は355.0kcal、一日の推奨カロリーは568.0kcalと予想されます。

に与えるごはん、おやつの栄養成分、カロリー、塩分などを確認して、食事管理を配慮してください。 の健康管理のために、処方食や機能食、栄養食、サプリメントなどが役立ちます。

### ▶ ピーターズ・ラボのおすすめ再検査日

は、約4カ月後にピーターズ・ラボ検査で健康診断を受けることをお勧めします。

**ピーターズ・ラボのおすすめ再検査日：2024-11-12**



Peter's Lab  
Petcare Science



twitter



Instagram

**ピータース・ラボ株式会社**

〒105-6415

東京都港区虎ノ門1丁目17番1号虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階

**SNS**      住所

**Office**    03-5846-8998

**Email**     foryou@peterslab.jp  
へお問い合わせください。